

もが暮らしやすい 地域づくりに向けて

谷区自立支 協議会
~どう変える? 谷の福 ~

6月1日、有志の会第2回セミナー「みんなで語ろう 暮らしのニーズ」が開催され、自立支援協議会の運営に欠かせない様々なニーズが語られました。6月5日には第1回の自立支援協議会合同専門部会も開催され、いよいよ本格的に運営が始まりました。

セミナーの様子

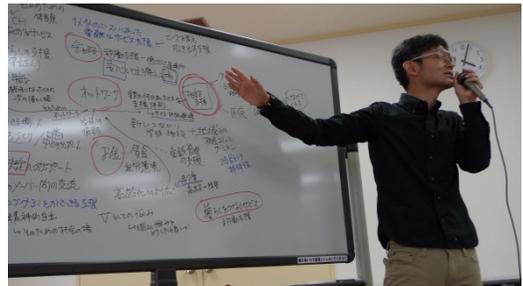
1. 今回のセミナーのねらい

私たちは、ぱれっとと渋谷なかよしぐる一ぷのスタッフで構成される「渋谷の福祉を考える有志の会」の役割のひとつとして、「地域社会の声」を集めて、それを自立支援協議会（以下協議会）や相談支援専門部会、就労支援専門部会の運営に「地域のニーズ」として届けていくということを位置づけました。今回行なわれたセミナーはその一環として、まずはとにかく、皆で「困っていること」「必要なこと」を出し合い、共有することを目標に、渋谷区内の作業所や親の会、ボランティアなどにも広く声をかけ、渋谷区リフレッシュ氷川にて開催されました。

2. グループディスカッション形式

当日のセミナーは、渋谷区内で暮らす様々な障害のある人達や、親や兄弟

姉妹の皆さん、作業所やケアホームの職員など40名あまりの参加者のもと、年代や親、支援者などの立場による5つのグループに分かれてディスカッション形式で進行しました。各グループ、まずはざっくばらんに「困っていることは？」あるいは「こうしたらもっと良いというものは？」という問いに対して思いを出し合いました。「ひとり3つまで」というルールで、自分の思いをまとめる作業は、難しいかも知れないと考えていましたが、参加者は皆はつきりとそれぞれの思いを語り、どこのグループでも白



【浦野さんによるまとめ】

熱した議論が展開されていました。それだけ皆さんのニーズが実際の暮らしに即したものであり、共感しあえる点が多かったということの意味するのかも知れません。約1時間のグループディスカッションのあと、それぞれ話し合われた内容を模造紙にまとめて発表しました。障害のある本人や親の年齢によるニーズの違い、作業所職員など



【セミナー会場の様子】

セミナーで挙げられたニーズ

カテゴリ	ニーズの内容	カテゴリ	ニーズの内容
相談支援	身近な場所に気軽に相談できる場所 (医療・各種サービスを使用する際の)	仕事	年齢に応じた労働環境 (セカンドステージ) 正式な就労前に可能性や適性を見極められる場所 作業所間で移動可能なシステム
お金	所得保障 個々の金銭管理への支援 工賃アップ	暮らし	安心して永住できる選択肢 (GH/一人暮らし) そこへ向けての訓練・体験の場
余暇	家庭・日中活動以外の場 ふらっと寄れる場所 いるだけでも良い場 地域ごとに数カ所	ネットワーク	作業所間 サービスを横断する形で 存在するもの 相談をすぐに具体的な支援にできるもの
自己決定サポート	意思決定支援(相談支援) 向上心を持ち続けられる (エンパワメント) 精神的自立	その他	移動支援の範囲拡大 (通勤・通学・ショートステイ利用時など)

の支援者の立場による意見など、様々な声が出され、セミナーの最後に、進行役を務めた渋谷なかよしぐる一歩の浦野さんが、それぞれの話をまとめ、8つのカテゴリに分類しました(上の図参照)。終了後、参加者の皆さんからは「思い切り声を出せる場があってよかった」「こうした交流を図れる機会が定期的にあると良い」「皆必要としていることが同じなんだと思った」という反応があり、個々の声はあっても、障害の分野や立場を越えて交換しあったり、集約したりという機会の少なさも浮き彫りになりました。また、年代や立場の違いこそあれ、全体に横たわるキーワードがいくつか挙げられたのも今回のセミナーの収穫であったと思います。

3. 共通のキーワード

今回のセミナーの分析から上がってきた主なキーワードに「多様性への対応」「安心、安全」「自己決定」などがあります。多様性とは、文字通り「様々な障害やニーズの形」。働く、暮らす、余暇などの生活場面におけるサポートに、色々な選択肢があること、つまりはそれによって暮らしの可能性が広がることを望む思いは、立場や年代を越えて同じであることが今回のセミナーではっきりしました。また、「安全、安心」の部分では、「(障害者本人も)気軽に相談できる場所」「ふらっと立ち寄れる場所」を求める声があり、これはまさに、私たちぱれっとが設立当初、「たまり場ぱれっと」に込めた思いそのものでした。障害のある人たちの生活圏が広がり、私た

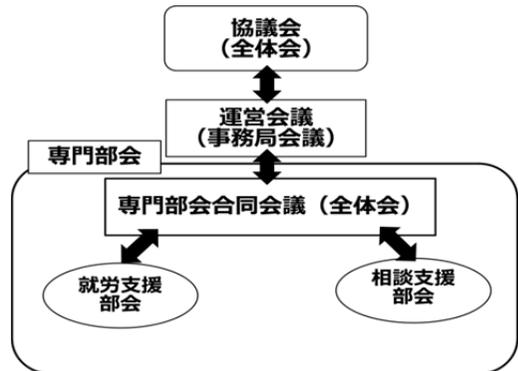
ちが長年取り組んできた「選択肢作り」や「可能性への挑戦」といった課題が、間違いなく前進していると感じました。そして、この多様な声に応じていくためには、同時にサービスや就労の形に「柔軟性」も求められ、そういう面では、渋谷の福祉や制度はまだまだと言わざるを得ません。また、多様化の中身は何か、「柔軟性」とは具体的にどういうことかなどの議論を重ねなければ、その実像のイメージは見えてきません。同じように「自己決定」も各方面で良く言われることですが、本当の意味で「自ら選ぶ、決定する」という社会にするためには「意思決定支援」も必要になります。これらはいくまでも「本人主体」という考えに基づいていますが、今の手法が本当に「本人主体」「意思決定支援」となっているのか、などの疑問も含めてしっかりと皆で議論し、イメージを共有することが必要に思います。

自立支援協議会の動き

6月5日(水)渋谷区役所にて、第1回の協議会専門部会合同会議が行なわれ、ぱれっとからは、南山が就労支援専門部会の常任委員として出席をしました。すでに協議会委員として、理事の谷口奈保子が参加していますが、下部組織である専門部会としての具体的な動きは今回が初めてとなります。この数か月、渋谷作業所連絡会が準備のために動いてきましたが、今回の立ち上げにあたり、就労支援専門部会は区内のニーズや就労に関する資源(協力企業など)を掘り起こしつつ、まず

は区内の就労現場の現状を把握することを当面の目標としました。また、相談支援専門部会は、すでに精神障害の分野で行なわれている自立支援ネットワーク会議をベースに、他障害の関係者を巻き込みながらサービス等利用計画作成のための体制づくり、地域移行支援などの動きを取ることになりました。7月下旬には協議会の全体会が開催される予定で、そこへ向けて各専門部会もいよいよ本格的なつながりを作り始めます。

【渋谷区自立支援協議会の体制】



有志の会のこれから

今回私たちが開催したセミナーのねらいは「ニーズをできるだけ詳しく出し合い、集約することで地域の課題を明確にする」というもので、参加者の感想や各グループのまとめを見ても、ある程度達成できたと考えています。今後はこれらを一方的な要望に終わらせるのではなく、関係者一人ひとりが解決にあたる当事者として課題に取り組まなければなりません。そこに、より有用なネットワークが作られ、皆が参加する地域社会が実現するのだと思います。

NPO 法人ぱれっと 事務局長 南山達郎